

幹細胞産業応用促進基盤技術開発 (経済産業省：平成23年度予算額 6.7億円)

事業の内容

事業の概要・目的

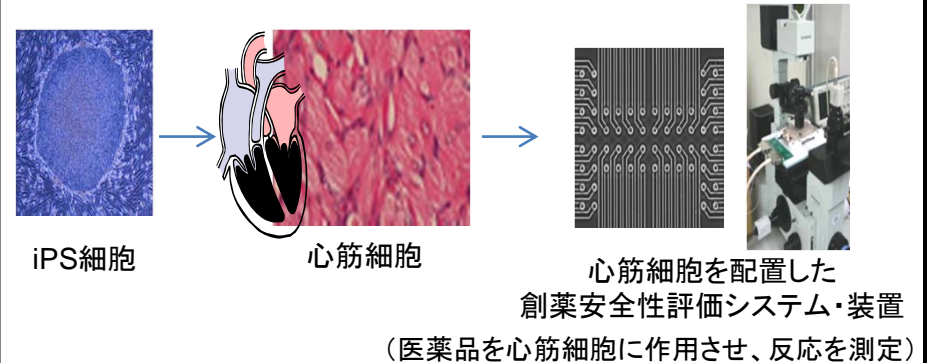
- iPS細胞（人工多能性幹細胞）は体内のあらゆる細胞に変化することができる万能細胞であり、創薬プロセスや再生医療等産業への応用が期待されています。
- 本事業では、iPS細胞を用いた医薬品の安全性評価システムを開発することにより、iPS細胞の産業応用事例を創出するとともに、製薬産業における新薬開発の効率性の向上を図ります。
- 具体的には、以下の研究開発を実施します。
 - ① iPS細胞を用いて心筋細胞等を効率的に作製する技術を開発します。
 - ② iPS細胞から作製された心筋細胞等を用いて、創薬プロセスにおける安全性評価に活用可能な、創薬安全性評価システム・装置を開発します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

iPS細胞を用いた創薬安全性評価システム・装置の開発



iPS細胞から作製した心筋細胞を用いて
開発候補薬の安全性を正確に評価するシステム・装置を開発
<QT延長による間接評価から催不整脈発生の直接評価へ>

